

## 室蘭市学力向上基本計画の成果と課題

### 1 学力向上基本計画について

室蘭市教育推進目標（平成 23 年）  
「21 世紀を切り拓く心豊かで主体的に学び続ける人づくり」



平成 23 年度～平成 25 年度 室蘭市学力向上基本計画（第 1 期）  
 平成 26 年度～平成 29 年度 室蘭市学力向上基本計画（第 2 期）  
 平成 30 年度～令和 4 年度 室蘭市学力向上基本計画（第 3 期）

### 2 学力向上基本計画の目標（数値目標）

	目標 1	目標 2
第 1 期	全国学力・学習状況調査における教科に関する本市の調査結果を、調査したすべての教科において全国平均以上の正答率とする。	全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査結果の全国比マイナス数値の減少
第 2 期		
第 3 期		室蘭市標準学力検査で調査したすべての教科の観点別到達度で「おおむね十分」以上に達する児童生徒の割合を 80%以上にする。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

##### 目標 1

- ・全国平均値とのばらつきの減少・学力の安定化

##### 目標 2

- ・家庭での学習習慣・生活習慣の改善
- ・教科の基本的な力の定着

#### (2) 課題

##### 目標 1

- ・算数・数学科において、全国平均を下回っている。

##### 目標 2

- ・「自己有用感」「地域への愛着」の意識が全国平均を下回っている。
- ・「思考・判断・表現」の力を身につけている児童生徒の割合が目標を下回っている。

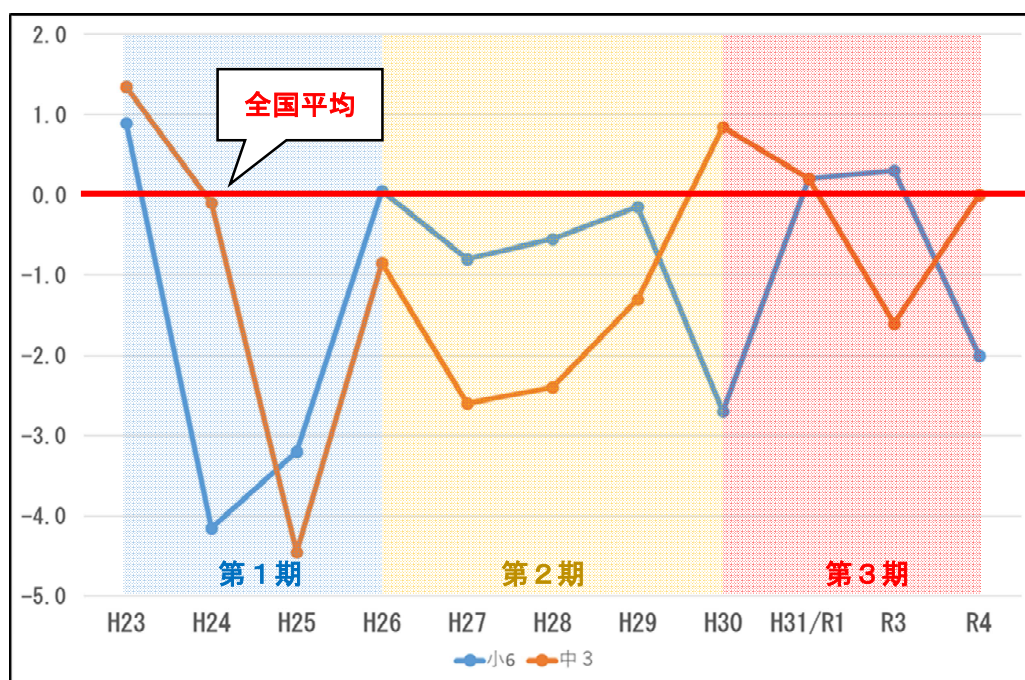
## 室蘭市学力向上基本計画における目標達成状況

※令和2年度は、コロナ禍のため全国学力・学習状況調査および室蘭市標準学力検査は実施していません。

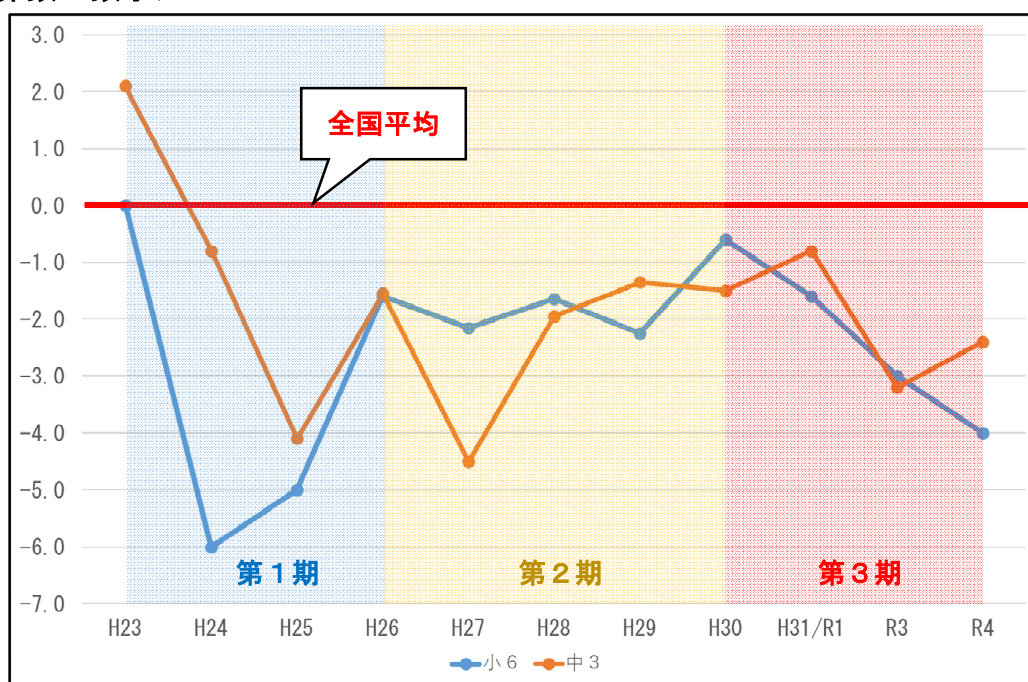
### 目標1（第1期～第3期）

全国学力・学習状況調査における教科に関する本市の調査結果を、調査したすべての教科において全国平均以上の正答率とする

#### <国語>



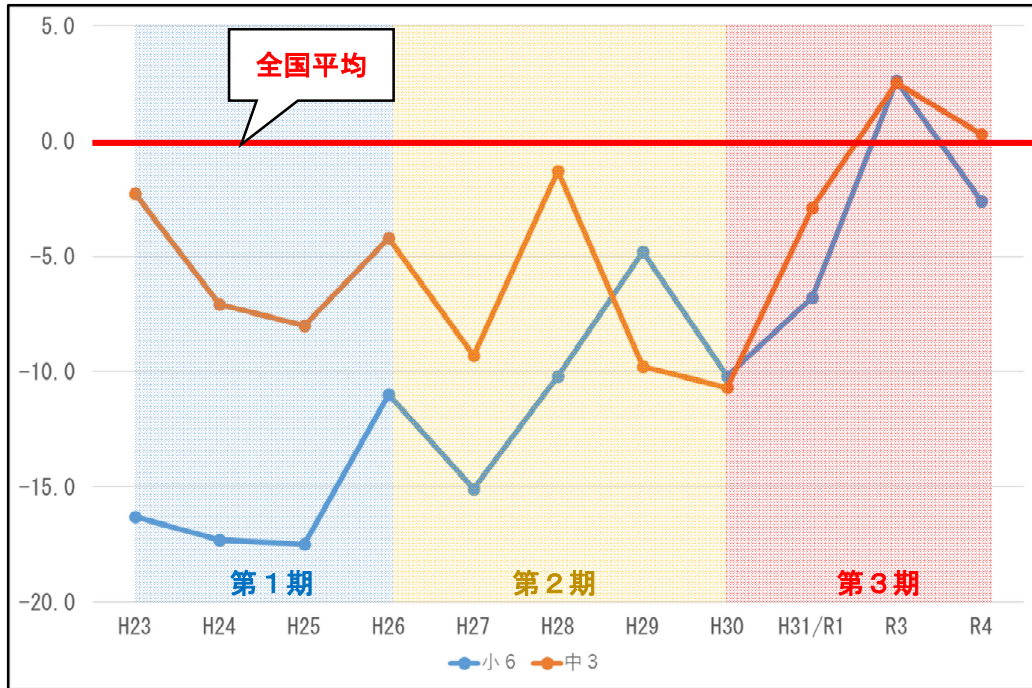
#### <算数・数学>



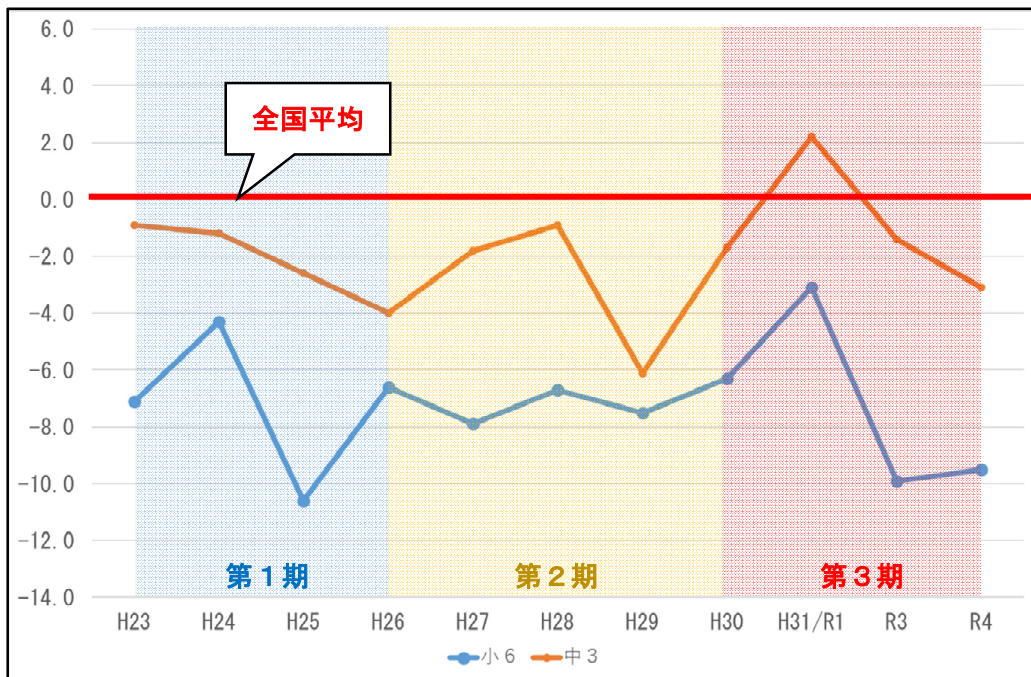
## 目標 2 (第 1 期～第 2 期)

全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査結果の全国比マイナス数値の減少

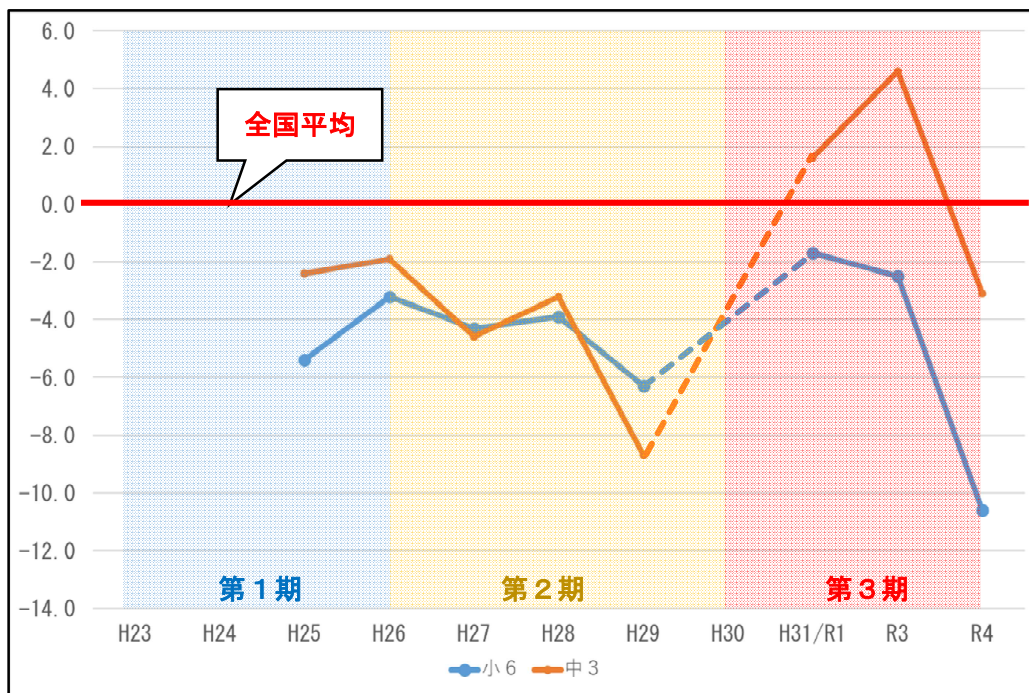
「学校の授業時間以外に普段(月～金)、1日当たり1時間以上勉強をしている」



「自分にはよいところがあると思う」

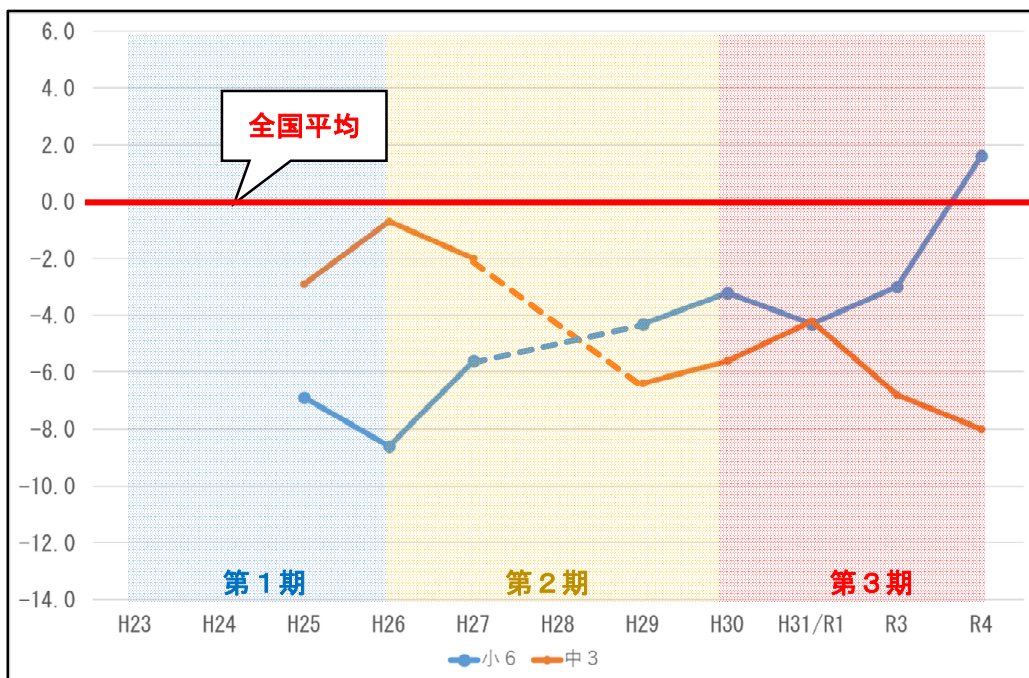


「学校に行くのは楽しい」(H23、H24、H30は質問項目なし)



「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

(H23、H24、H28は質問項目なし) ※愛郷心を見取る指標としています。

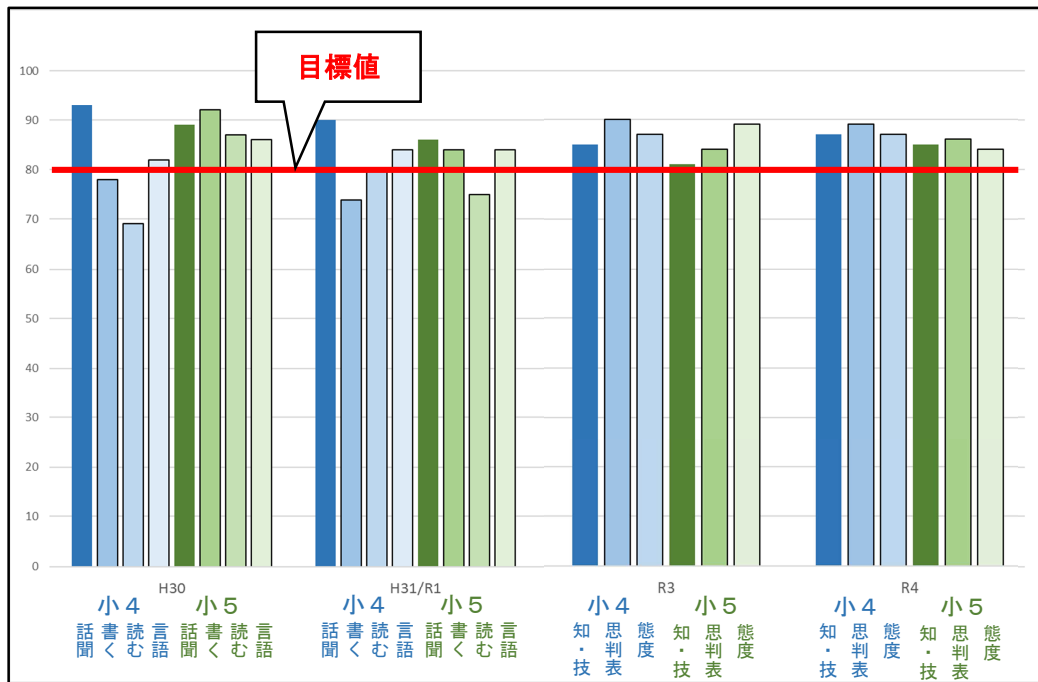


## 目標 2 (第3期)

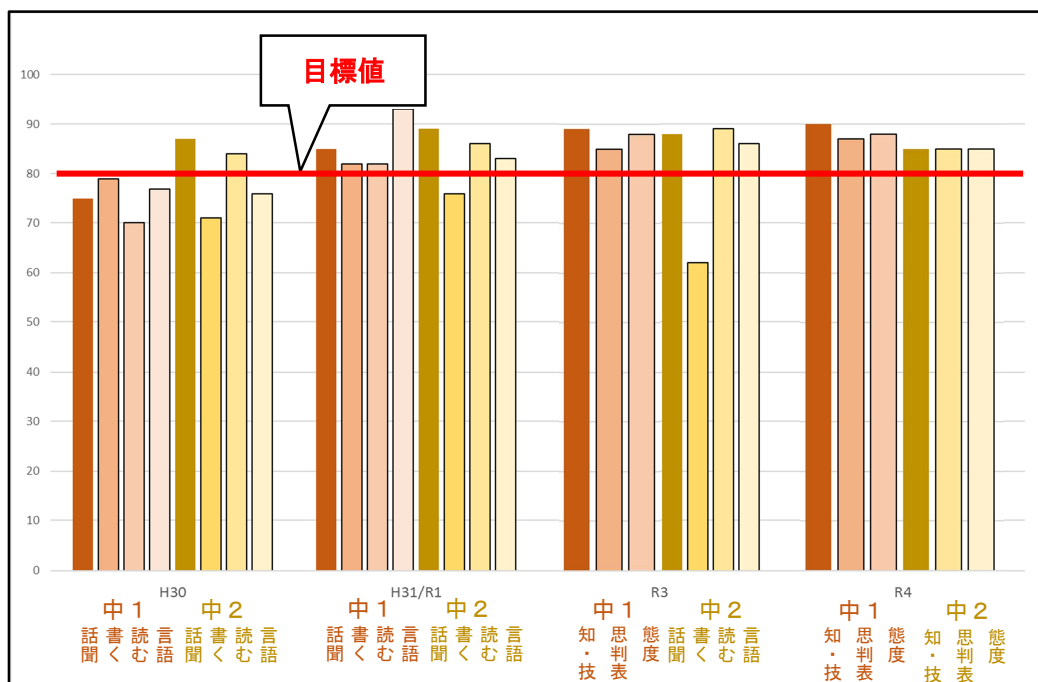
室蘭市標準学力検査で調査したすべての教科の観点別到達度で「おおむね十分」以上に達する児童生徒の割合を80%以上にする

※学習指導要領改訂前後で、評価の観点が異なります。

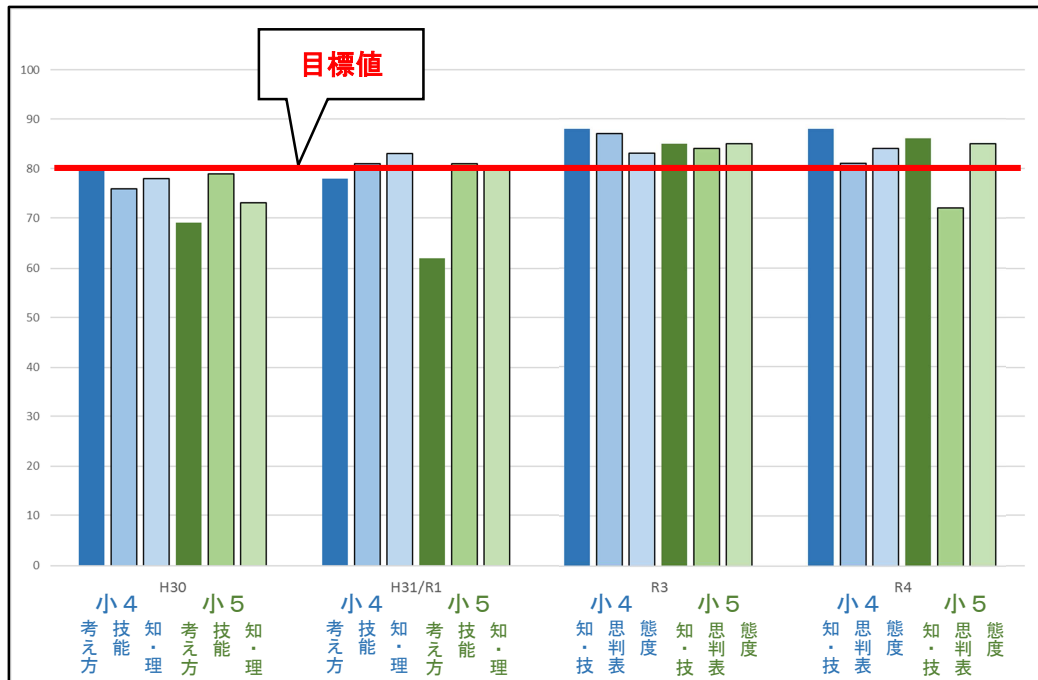
### <国語 小学校>



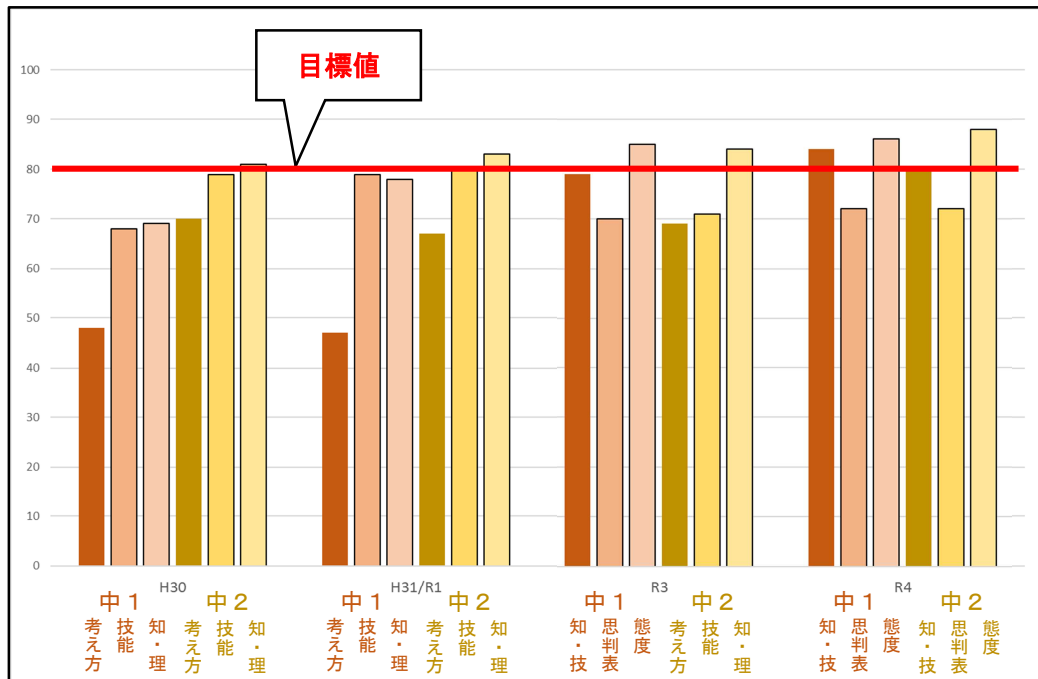
### <国語 中学校>



<算数 小学校>



<数学 中学校>



## 【総括】（○…成果 ●…課題）

### 目標 1（第 1 期～第 3 期）

全国学力・学習状況調査における教科に関する本市の調査結果を、調査したすべての教科において全国平均以上の正答率とする

- 全国平均値とのばらつきが小さくなり、学力の安定化が見られる。特に、国語科においては全国平均同等以上の正答率となる年が多くなった。
- 算数科においては、特に第 3 期以降続落し全国平均との差が開いた。新学習指導要領にて重視される思考・判断・表現の力に課題があると考えられる。

### 目標 2（第 1 期～第 2 期）

全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査結果の全国比マイナス数値の減少

- 家庭での学習習慣や生活習慣との改善がみられる。特に、小学校における家庭学習時間は大幅に向上し、全国平均を上回る年も見られた。
- 「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」などの項目で、特にコロナ禍以降全国との乖離が見られる。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と愛郷心に関わる質問項目で、肯定的な回答が全国を下回り続けている。

### 目標 2（第 3 期）

室蘭市標準学力検査で調査したすべての教科の観点別到達度で「おおむね十分」以上に達する児童生徒の割合を 80%以上にする

- 教科の基本的な力である、「知識・技能」（旧学習指導要領「知識・理解」）において、おおむね 80%を超えており、安定的な学力を維持できるようになった。
- 「思考・判断・表現」（旧学習指導要領「考え方」）においては、改善は見られるものの 80%の目標を下回っており、教科の基本的な力を用いて考えを深めたり、適切に説明や表現をしたりする力を身につけている児童・生徒の割合が依然少ない状況である。